

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0759
施設名	烏山保育園
施設所在地	東京都世田谷区南烏山6-22-14
法人名	社会福祉法人雲柱社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

SDG s

<テーマの設定理由>

園の事業計画にSDGsが盛り込まれており、職員一同、日頃の保育の中でこの取り組みを意識している。例えばSDGsに関する紙芝居や絵本を読んだり、ハンカチや水筒を使用することで廃棄する紙を減らしたり、廃材を使った製作を行ったりしてきた。お泊まり保育では、普段廃棄している生姜の生ごみと、玄関に咲いているローズマリーを乾燥させた入浴剤をお風呂に入れて浸かる経験もした。私たちの身近にあるSDGsを具体的に掘り起こしているのが園の強みと言えると思う。またSDGsの先駆者のひとりである賀川豊彦が自法人の創設者であることも、私たちがこれを継承していきたいという理由の一つでもある。

大人が何も言わずとも、紙の切れ端や給食で出た果物の種を「何かに使えないか」「もう一度使えないか」「これはSDGsの何番かなあ」と考える姿が多く出てきていることから、SDGsへの興味関心が高まっているのを感じる。

2. 活動スケジュール

4月以降 遊びの中でコーヒー豆挽きから始まり、子どもの声を元に発展させていく
8月以降 栄養士とのやりとりから、捨ててしまう食材にも目を向ける
11月 園内で実施した募金をきっかけに、それをどう活用するか皆で考える
12月 地域のお店に協力してもらい、SDG sの学びを深める
1月 保護者にこれまでの活動内容を伝える

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

コーヒー豆／ポット／ドリッパー／ペーパーフィルター／新聞紙／コーヒーミル
／紙コップ／マジック（紙コップに絵と名前を書く）／筆／画用紙／半紙
／不要なTシャツ／綿棒／スポイト／ボウル／1度ドリップしたコーヒーの粉
／ポット／コーヒーの木／包丁／コーヒーチェリーの写真／りんご／乾燥ネット
／紙／オーガニックの袋／スプーン／シール／定規／お茶のパック／みかんの皮
／支援ギフトの見本写真／募金箱／ホワイトボード／のり／色鉛筆／名札
／紙袋／マジックテープ／はさみ／ミキサー／焼きミョウバン／バンダナ／玉ねぎの皮

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

●活動①コーヒーの豆挽き

コーヒー容器の空き廃材を使った製作していると「いいにおい」「飲んでみたい」という声が上がった。以前他施設を見学に行った際、コーヒーの豆を挽く遊びをしていたのを思い出し、興味を持っていた4人の子どもたちと一緒にやってみることとする。

●活動②コーヒー豆を乾燥させる

作ったコーヒーの粉を乾燥させればもう一度飲めるのではないかと、そうして使っていけばSDGsではないかという子どもたちの提案のもと、もう一度コーヒーを入れてみる。

●活動③コーヒーインクの染物

コーヒードリップ後の粉をまた乾燥させていたので、それを用いて2回目のドリップ実施。その後、前回子どもたちの口から出た「インクを作りたい」という意見から、Tシャツと紙染めを行ってみる。

●活動④コーヒーチェリーを見せてもらう

隣のクラスの担任が「コーヒーの木を育てているよ」と話したことから「見たい」と話が進み、実物を借りて見せてもらった。また豆になる前のコーヒーチェリーについて写真を見せて話をした。SDGs 12番に基づいて、作ったコーヒーの粉を再利用することを全体に話し、SDGs 1番からコーヒーの木を栽培するにあたっての貧困問題にも触れた。

●活動⑤捨てる食材に目を向けて（サシェ作り／皮を食べる／陳皮ティー作り）

栄養士に「SDGsについて何か一緒に出来ることはないだろうか」と相談したところ、りんごの皮むきの提案をしてくれた。他クラスでも食育の一環で、りんごの皮むきを子どもの目の前で行う活動を行っているが、皮をむくだけでなく、その皮の利用法についても栄養士が話をしてくれたことから子どもたちの興味が広がり、色々な活動に結びついていった。

●活動⑥コーヒーカスのサシェ作り

「匂い袋が作りたい」という声を元に、サシェを作成。一度ドリップしたコーヒーを、天日干しや電子レンジ、陰干しなどで乾燥させ、それをお茶パックに入れてからオーガンジー袋へ。お手紙を添えて祖父母へのプレゼントとして用意した。

●活動⑧スターバックスさんのワークショップ

SDGsについて何か一緒に出来ることはないかと相談したところ、紙袋のポーチづくりを提案していただいた。リサイクル、ものを大事にするということがいつも頭にある子どもたちなので「SDGsだ!」と喜び当日を心待ちにし、完成したポーチも大事に持ち歩く姿があった。

●活動⑨募金の使い道

集まった募金はユニセフの支援ギフトとして使用することにした。その中の何を届けるかを、子どもたちと話し合い皆が納得する答えを自分たちで導くことが出来た。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

コーヒーを挽く経験をきっかけに、とにかく考えることをやめない子どもたちが、残った物を“捨てる”のではなく他の活用法にできないか考えていくことでSDGsと向き合ってきた。「これまだ描けるよ」と短くなった色鉛筆を使ったり、リサイクルボックスの紙を積極的に使ったり、果物の皮でジュースを作ったり染め物をしたりと、今回の経験を通して子どもたち発信で「これも何かに使えるかな?」と、遊びの中でも気づくようになる場面が増えた。これから生きていく世界が、すこしでも過ごしやすいものになるよう大人ができることを考えるだけでなく、自分たちでも行動していくきっかけになれば良いと感じた。SDGsと聞くと難しく感じていたが、日常で私たちができていることも多くあるのだと、子どもたちから気付かされた。